

# 西国巡礼慈悲の道

西国第十三番

石光山

石山寺

## 新たな決意

山主 鷲尾遍隆

二〇〇八年は源氏物語千年紀、二〇〇九年は花山法皇崩御一千年記念行事として全札所の御開扉と、忙しい二年があつという間に過ぎました。

そして、二〇一〇年、ほつとしたのか体調がすぐれず、足腰が弱ってきました。まわりを見渡すと、数名の友人が他界し、それも、中・高・大の同級生ばかりです。一時気弱になりましたが、僧侶というものは六十

になつても、まだ若造扱いされがちな立場で、弱った人々を救い、他界した者を供養し、自分自身をより磨いていかなければなりません。

そして、私には、当寺に脈々と伝わってきた石流せきりゅうという独自の法流、及び一千年以上の昔からの僧並びに石山寺に貢献してくれた多くの歴史上の人物を、より多く世間に知らしめ、供養していかなければならな

いという使命が残っています。

ことを聞く良弁僧正の姿が描かれています。

ご本尊である如意輪観世音菩薩さまの偉大さを記した「如意輪陀羅尼経」は、病氣平癒のありがたさが説かれていますが、石山寺が創建された奈良時代は、まだまだ医療が発展しておらず、「陀羅尼経」への絶大な信頼がありました。聖武

この絵巻には、石山観音の靈驗譚が三十三段にわたって記されていますが、これは、観世音菩薩さまが、三十三に姿を変えて人々を救われることと決して無関係ではありません。

天皇の御世、大仏を開眼した菩提遷那、良弁僧正、その弟子の道鏡等は、「陀羅尼経」をこよなく愛した僧侶です。ご存じの通り、良弁僧正は聖武天皇の勅願により、石山寺を開かれた方で、石山寺に伝わる「石山寺縁起絵巻」の冒頭には、比良明神から、この石山の地が観音の利生の地である

迷った時は、その度に「石山寺縁起絵巻」を読み返し、観音さまの力の偉大さをかみしめるようにしています。私も観音さまに救われながら、より多くの善行を積み、一人でも多くの方々が救われるように祈っていきたいと心より願う今日この頃です。

西国第十三番

石光山  
石山寺  
いしやまであら

東寺真言宗大本山

御本尊／勅封二臂如意輪觀世音菩薩 開基／良弁僧正

のちのよを ねがふところは かるくとも

ほとけのちかひ おもきいしやま

● 觀世音菩薩

安産、福德、縁結

● 不動尊

厄除け

● 四季の花々をお楽しみみく

ださい。梅四百本、桜一千本、モミジ一千本。その他、つつじ、さつき、しょうぶ、あじさい、しやが、等。

主な年中行事

元旦～三日 初詣（零時開門、無料）

一月十七、十八日 初観音

一月二十一日 初弘法

一月二十八日 初不動

二月三日 星祭大祈禱会

春分の日 春分彼岸会

三月十八日～六月三十日 紫式部展

五月第三日曜 青鬼祭り

八月九日 千日会（二十時、花火大会）

九月 中秋の名月

九月一日～十一月三十日 紫式部展

十二月六日～八日 仏名会

〒520-0861 滋賀県大津市石山寺1丁目1-1

TEL 077-537-0013/FAX 077-533-0133

納経時間 午前9時～午後4時

仏教用語一口解説

身・口・意とは

「身」は行い、「口」は言葉遣い、「意」は心の持ち方（考え方）のことです。この「身・口・意」を正しくする事が重要なのです。人のことを考えた行動をする、相手を尊敬した言葉遣いをする、そうすれば周りの人もあなたに対して、そう思っ下さるでしょう。そこに融和が生まれるのです。いつも明るくポジティブな考え方を持つことは、自分にいつも勇気を与え、周りの人にも元気を伝えられるのです。